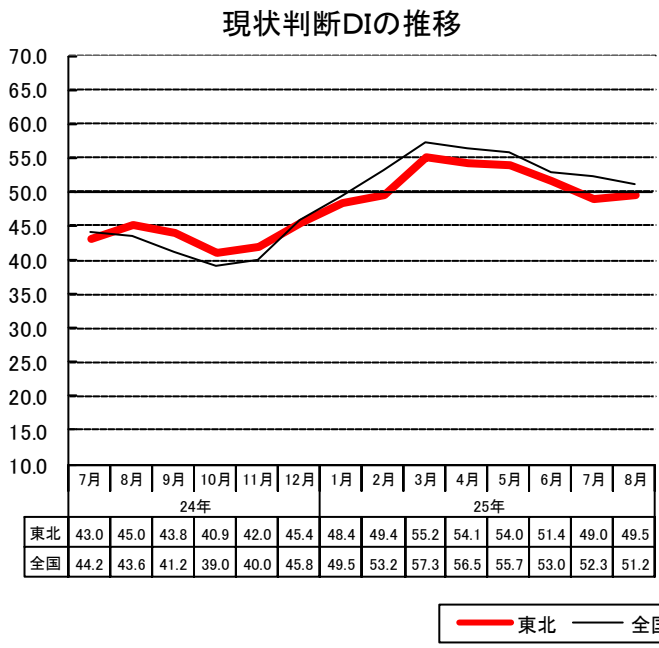


公益財団法人東北活性化研究センター
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 25 年 8 月東北分
(新潟を含む東北 7 県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力(株)取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 25 年 8 月東北分（新潟を含む東北 7 県）」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 現状判断（3か月前との比較、方向性）

現状判断 DI「49.5」（+0.5）は、5か月ぶりに前月を上回ったものの、景気判断の基準となる 50 を 2か月連続で下回った。



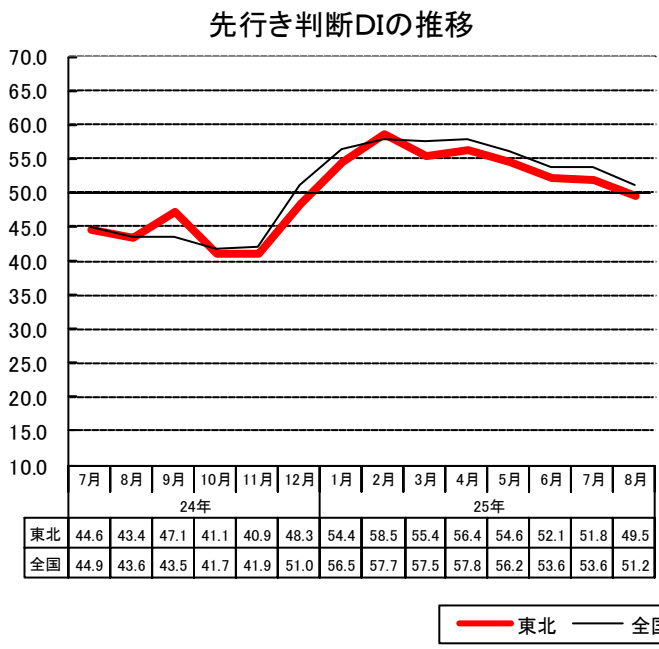
- ・家計動向…梅雨明けの遅れや局地的豪雨により、百貨店や都市型ホテルなど、多数の業種で悪影響が出ている。DI は「48.4」（+0.8）と 5 か月ぶりに前月を上回ったものの、基準値 50 を 2 か月連続で下回った。

- ・企業動向…殆どの業種で景気判断はプラスとなっている。DI は「51.2」（▲1.8）と 2 か月ぶりに前月を下回ったものの、基準値 50 を 8 か月連続で上回った。

- ・雇用動向…DI は「53.4」（+2.3）と 5 か月ぶりに前月を上回り、基準値 50 を 8 か月連続で上回った。

2. 先行き判断（2～3か月先の見通し、方向性）

先行き判断 DI「49.5」（▲2.3）は、4か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる 50 を 8か月ぶりに下回った。



- ・家計動向…消費税増税前の駆け込み需要が期待されている。しかし、増税及び公共料金や輸入品の値上げによる消費の落ち込みを懸念する声も多い。DI は「47.2」（▲2.5）と 4 か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 2 か月連続で下回った。

- ・企業動向…非製造業の殆どの業種において、景気判断はプラスとなっている。DI は「54.2」（▲4.3）と 3 か月ぶりに前月を下回ったものの、9 か月連続で基準値 50 以上となった。

- ・雇用動向…DI は「55.7」（+2.3）と 4 か月ぶりに前月を上回り、基準値 50 を 9 か月連続で上回った。

<参 考>

■D Iの推移※

(1) 現状判断(方向性) D I

	24年						25年							
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
東北現状	43.0	45.0	43.8	40.9	42.0	45.4	48.4	49.4	55.2	54.1	54.0	51.4	49.0	49.5
家計動向関連	41.0	43.4	42.1	41.0	41.1	45.7	45.3	46.4	53.6	52.6	52.1	51.0	47.6	48.4
企業動向関連	46.3	46.3	45.1	37.2	42.5	43.1	53.6	55.5	57.3	56.0	59.5	51.8	53.0	51.2
雇用関連(参考)	50.0	53.4	52.3	47.7	46.6	47.7	59.1	58.0	61.4	60.2	55.7	53.4	51.1	53.4

(2) 先行き判断D I

	24年						25年							
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
東北先行き	44.6	43.4	47.1	41.1	40.9	48.3	54.4	58.5	55.4	56.4	54.6	52.1	51.8	49.5
家計動向関連	43.3	40.2	46.2	40.2	39.2	47.4	52.9	58.4	53.6	54.7	53.5	50.3	49.7	47.2
企業動向関連	48.8	50.6	49.4	42.1	45.0	50.0	59.5	61.6	61.0	60.7	57.1	57.7	58.5	54.2
雇用関連(参考)	45.5	51.1	48.9	44.3	44.3	51.1	54.5	53.4	56.8	59.1	56.8	53.4	53.4	55.7

※D I (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成 25 年 8 月 25 日～31 日

回答者数 208/210 名、回答率 99.0%(全国 1,886/2,050 名、92.0%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-222-3394 FAX : 022-222-3395

<別 紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「やや良くなっている」

（商店街）…雨量も少なく、ゲリラ的な集中豪雨もなく、夜は飲食を中心に来客数が多くなっている。ねぶた祭り等の大きなイベントでも人出は若干増えている。

（コンビニ）…気温に左右される商売なので、8月の上旬は低温が続き芳しくなかったが、その後は気温が高い日が続く、売上も前年を超している。

（家電量販店）…夏場の猛暑があり、エアコン、冷蔵庫が好調である。猛暑の影響もあるが、来年消費税が上がるということで、新築した客が家電製品を買うという動きが出ているようである。

（ショッピングセンター）…前年の売上金額は維持しており、特に夏物衣料品のセールが好調に推移している。婦人用の高額品と、単価の低いカジュアルウェア用品のまとめ買いにて売上が伸張している。

（リフォーム）…供給高が予算を達成し、前年と同程度までに回復している。来客数も予算には及ばないものの、前年実績が見えるところまできている。

（建設業）…消費税増税前の駆け込み出件が医療関連で多く見られ、出件数は増加となっている。

○「変わらない」

（百貨店）…局地的な豪雨があるなど、天候不順となっている。雨中は入店客もなく商売に大きな影響が出ている。晩夏、初秋物は堅調だが、気温が低いせいか夏物衣料品が厳しく、足を引っ張っている。生鮮を中心とした食品も厳しい。一方で、時計、宝飾、美術品など高額品は一部の富裕層により引き続き堅調となっている。

（スーパー）…来客数、買上点数共に変わっていない。

（衣料品専門店）…原材料の高騰により仕入価格が徐々に高くなり、小売価格に反映してきている。一方で、来年の消費税率アップの懸念から、前倒しで作業服等の受注も増加してきている。

（酒類専門店）…お中元ギフトはほぼ例年並みの動きだったが、梅雨明けが異常に遅かったことに加え、その後のゲリラ豪雨の影響も大きく、生ビール等の動きが遅く鈍い。この遅れを取り戻すのは厳しい。

（ガソリンスタンド）…猛暑の影響で販売量は良かったが、度重なる仕入れ価格の上昇で、収益が圧迫されている状況は改善されていない。長引く低収益のため、経営状況に悪影響が出てきている。また、価格が高止まりしているため、心理的に節約志向が強まってきている。燃料以外の商品の荷動きが悪い状況が継続している。

（観光型旅館）…8月の宿泊人数は前年を超えて順調であったが、安い商品が主力で、人数の伸びに売上がついてきていない。

（観光名所）…来客数は前年比 100%を維持している。客単価も変わらない。ただ、お土産品を扱っているのだが、できるだけ多くの人に持って帰ろうとして、単価を下げ、安い物を大量に買うという方向に向いているようである。

（住宅販売会社）…消費税増税前の駆け込み受注が止まらない。

（食料品製造業）…アメリカ産牛肉の輸入が 30 か月齢以下のものまで拡大されれば、牛タンももっと入ってきて、総合的には相場も下がるとみてきていたが、2月に解禁になっても量的には緩和されず、ずっとシビアな状態にある。景気は若干良いまま推移しているが、大きくは変わっていない。

（一般機械器具製造業）…自動車部品は輸出環境が好転しているが、スモールカーが中心のため付加価値が減少している。

（電気機械器具製造業）…身の回りに影響のある携帯電子機器分野が受注量、販売量共に好調だが、その好調ぶりは大きく変わっていない。

(輸送業) …物量が低調に推移している。また、環境的にも明るさが見られない。

(飲食料品卸売業) …県内、県外向け出荷共に安定して好調が続いている。一部の高額商品のほか、定番商品も順調なことから、飲食需要の好調がうかがえる。

(人材派遣会社) …派遣需要以外の有料職業紹介事業の増加や業務委託の新規増加等で単月売上が前年比プラスを計上できたことが現状維持を下支えしている。

(職業安定所) …求人は業種ごとで多少の増減はあるものの、高止まりの状況が継続している。

(民間職業紹介機関) …求人企業は相変わらず、復興や介護福祉、物流といった業種に偏っている。

○「やや悪くなっている」

(高級レストラン) …今夏は猛暑及び諸々の値上げにより、来客数が減少している。

(都市型ホテル) …上旬の竿燈まつりは過去最高の人出を記録するなど、多少雨に降られた日もあったが、そこまでは非常に順調であった。しかし、9日の豪雨により新幹線が12日まで止まってしまったため、人の行き来ができない状態でお盆を迎えてしまった。盛り上がりを欠いたまま、消費の動向に移ることができず、非常に大きな影響が出ている。

(通信会社) …8月上旬からようやく夏日が続く、客の購買意欲が上向くかと期待したが、それほど消費活動に影響せず、来客数も少ないままである。

(美容室) …シャンプー剤やパーマ液材の値上げにより、施術料金を200~300円値上げしたところ、客から「今までグレードの高いパーマをかけていたけど普通のものでよい」といったことや、カットの際に「シャンプーを省いてその分料金を安くしてほしい」といったことを言われるようになった。値上げの分を節約する客はまだまだいるようである。

(設計事務所) …今までこなしきれないくらいあった住宅関連の仕事も、今月は少しずつ少なくなってきている。

(出版・印刷・同関連産業) …役所関係の仕事が大幅に減っている。復興関係以外の予算は削られているようである。

(2) 先行き判断理由

○「良くなる」

(建設業) …大型復興工事の出件が遅れ気味ではあるが、2、3か月先には一部の案件の受注確定が予測できる。

○「やや良くなる」

(百貨店) …消費税増税の導入が決定された場合、駆け込み需要が始まることが予測され、一時的ではあるが景気が良くなる可能性はある。

(乗用車販売店) …他社の新型イベントで競争激化が予想されるが、市場の活性化は新車販売にプラスに作用すると予想される。

(住関連専門店) …消費者の給与の増加などはほとんどないであろう。しかし、消費税増税前の駆け込みで、当方でも住宅着工が前年より数10%増加しているため、少なくともそういう人たちは耐久諸費財を購入するとみており、今よりは良くなるだろうと判断する。

(都市型ホテル) …10月から始まるdestinationキャンペーンに大きな期待感を持っており、各方面でも動き始めている。秋の紅葉とあいまって、destinationキャンペーンで大きくにぎわえば、当地に多くの人々が来ることが予想される。

(広告代理店) …消費税が上がる前に、駆け込みで会社案内やHPのリニューアルなど、自社広報物の改定に踏み切る会社が多くなることが見込まれる。

(金属工業協同組合) …半導体関連の堅調に続き、医療機器関連の受注案件が見込まれるなど、受注量の増加が期待される。ただし、受注環境は低価格、超短納期等を求められており、引き続き厳しい。

(人材派遣会社) …再来年の4月入社、現在の大学3年生の新卒採用を強化するために、この8月の夏休みにインターンシップをやっている企業が前年に比べると増えている。今後、経済活動が活発になっていくとみている。

○「変わらない」

(ショッピングセンター) …消費税増税に向けた家計の引き締めが予想され、来客数の減少による売上の苦戦が懸念される。来客数は前年と比較し低迷しているため、いつまで客単価の上昇で売上を伸ばし続けることができるかである。

(観光型旅館) …連休や紅葉期のような時期は先行予約が入るが、あとは直前予約で、それも動きが弱い。集客に苦戦している状況は今後も変わらない。

(住宅販売会社) …受注が安定して確保でき、受注残が年明けまで確定している。

(農林水産業) …原発事故による果物の風評被害は前年より少なくなっており、ももの農協出荷分の精算書に期待が持てそうである。また、りんごも例年と同じくらいの注文数を見込んでいる。

(輸送業) …取扱量は前年同月比でわずかに回復傾向にあるが、物流市場全体に力強さがうかがえない。

(新聞社[求人広告]) …中央から聞こえてくる景気回復は、まだまだ地方では実感できない。短期の広告出稿予定も前年を割り込んでいる。

○「やや悪くなる」

(スーパー) …電気料金を始めとする公共料金の値上げ、円安による輸入品の値上げ等もあるため、客の儉約ムードは続くとみられる。

(衣料品専門店) …地方においては景気の回復は全く感じられず、物価の値上がりや消費税増税など支出が増えることばかりが予想され、ますます財布のひもが固くなる。

(酒類専門店) …ここにきて輸入ワインや日本酒などのメーカー、蔵元から値上げの通達が続々と届いている。値上げ幅も、ある商品では約1,000円と近年ないような大幅な値上げになるため、消費者に与える影響は大きいと考える。どこまでこの値上げを消費者が受け入れてくれるのか不安は募る。報道でなされるような景気の良さは全く実感できない。

(設計事務所) …全く先が見えない状態である。現場が資材不足等でなかなか進まない現状では、次の物件の話にはならない。

(土石製品製造販売) …ガソリン代の高騰で工事車両の移動も大変であり、その分セメント単価の値上げなどをせざるを得ない状況になっている。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上